

“本気の共闘”で自民道政からの転換を

市民十野党共闘の前進に確信もち 幅広い知事選共闘を

対話
集会で 青山道委員長

7月28日に行われた「北海道の未来を考える・市民と政党の対話集会」において、青山慶二道委員長が市民と野党の共闘についておこなった発言を紹介します。

高橋道政は安倍暴走政治のけん引車



みなさん、こんにちは。日本共産党北海道委員会の委員長をしています青山慶二と申します。よろしくお願ひします。

最初に、戦争させない市民の風、北海道のみなさんに、感謝申し上げます。このようないざいをお願いいたします。心から歓迎したいと思っております。今日の集会が、知事選挙はもちろんですが、今後の市民と野党の共闘がこの北海道でいっそう発展していく、その重要な貢献になる集会として成功させるために、私も積極的に参加したい、その立場で臨みたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

「案内をいただいている3つのテーマに沿って、お話をさせていただきます。」
第一のテーマは、高橋道政をどう評価するか、ということであり

高橋道政が誕生して15年ということになりますけれども、私ども前回の選挙戦時には、高橋道政について安倍暴走政治の「コピー」だと指摘してたたかいました。しかし今や、「コピー」どころか、安倍暴走政治の文字通り「牽引車」になっているのではないかと、思います。道民の暮らし、地域経済、雇用、福祉、教育など、どの分野を見ても、軒並み悪化している、というのが北海道の実態だと思えます。逆に、高橋道政でよくなった、よくなったと挙げられるものがあるかと問われたら、ほとんど挙げるものがないというのが実態ではないかと思えます。

高橋知事が、初めて当選した一期目の一番最初にやった仕事というのは、重度障害者医療費の1割負担増、1割増の導入というものが、240校から200校に減らされています。病院の統廃合が次々やられて、今、お産ができる市町村というのが、全道の19・5%しかない、という状況になっています。北海道の農業戸数も、15年前に5万5800ありましたが、今は3万8800。3割も減っております。

町から役場がなくなり、病院がなくなり、郵便局がなくなり、高校もなくなり、お店もなくなっていく。住み続けられない地域がいま急速に広がっている、それが今、安倍政権の下でいっそう拍車

がかかっている、というのが実態だと思います。ではなぜ、こんなことになったのか、ということについては、大きく二つのこととお話したいと思います。

一つは、何よりも高橋道政の政治姿勢、道民生活には本当に冷たい知事だ、ということであり、
みなさんご存知のように、今年から国民健康保険の管理運営が、都道府県に一本化されました。これまで住民の負担を軽くするために、各市町村が独自に軽減措置や支援制度をつくって実施していただきましたけれども、高橋道政はこの一本化に当たって、「そういう制度はけしからん」「解消しなさい」と迫ってきております。災害救助や農業問題、鉄道の廃止の問題、など、北海道の市町村がいよいよ困り果ててです、道に、さまざまな要請を行い、支援を求めるところが起きていますけれども、それに対して、ほとんどこれに「応えられない」という姿勢がない。「本当に冷たい」という声が、市町村から上がるほど、道民に冷たい高橋道政であります。

一方、大企業向けの大型公共事業、必要性が疑われるようなダム建設や道路建設には、最優先で予算を注ぎ込み続けている、ということが実態です。地方自治法が定める「住民の福祉の増進を図る」という本旨から言えば、かけ離れているというのが道政の実態ではないかと思えます。





もう一つの角度は、国の悪政に対してモノが言えない道政、これが大きな問題だと思っています。安倍政権の下で、北海道が今「壊されようとしている」と思います。先ほど、安倍政権の「牽引車」だと申しましたけれども、私は、安倍政権が進める「北海道つぶし」の四つの国策、というものを取り上げて、これを許さないたたか

性を見出し、輝く北海道、道民とともに歩む、情熱あふれる知事」「国の『北海道つぶし』と対決する、勇気を持った知事」「憲法を道政に活かし、平和を愛する知事」。こういう知事の実現こそ、北海道に求められているのではないかと考えております。みなさんと力を合わせて、新しい北海道政を切り開くために、私たち日本共産党も全力で頑張りたいと思います。

“勝てる共闘”へ3つの大切 中間での発言

私は、北海道における市民と野党の共闘というのは、いま大変大きく発展をさせている、と考えております。

前回の知事選挙は、佐藤のりゆきさんを候補として、共闘を組むということになりましたけれども、これは大変に未熟な共闘だったと思っております。何よりも、かつぐ政党・団体の中で、共通した政策・組織協定とかいうものがほとんど確認されないままの共闘だった。候補と各党間のブリッジ共闘でした。これは、その後の北海道における野党共闘を前進させていく上で、大変、逆の意味で、教訓化と言いますか、学ぶものがたくさんあったな、と思いますし、今度の知事選挙をたたかっていく上でも学ぶべきものがあるなと、思っております。

知事選挙に向けて考えてみますと、前回の知事選後、5区の補欠選挙、参議院選挙、そして、昨年の総選挙というところで、たたかいました。ここにおいては、政党間の政策協定の確認ということも含めて、大変、内容が豊かな野党共闘として、私たちが前進してきているし、絆もふかまってきたと思っておりますし、その過程の中でも、「今度の知事選挙はしっかりとした野党共闘で、市民と野党の共闘で、勝てる選挙をやりたいね」という思いも大いに語り合ってきた流れがあります。そういう到達の上で、すずめていけば、必ず、道民のみならずからも支持されるような、しっかりとした野党共闘ができるだろうし、作らなきゃいけないと思っております。それで、私は、野党共闘を進めていく上で、大事ななと思っておりますものが、三点あります。

一つは、道民のみならずの方の目から見て、「野党は本気になって共闘し、自民党政治や、道政を転換しよう」と、本気になって向かっているんだな」と分ってもらえるような共闘を作ることが、非常に大事だと思っております。それは、どっかこっかの候補を他の党がただ推す、というのではなくて、しっかりとしたプロセスを踏んで、対等平等でよく議論して、練り上げていく、本気になってやろうとしているんだな、ということが分ってもらえるようなプロセスというものが、私は非常に大事だと思っております。一日も早く実現させることはもちろん大事ですけども、もっと大事なのは、本気の共闘というのが道民のみならずの方の目に映るような共闘が、非常に大事だと思っております。

もう一つは、やはり共通の政策をしっかりと確認するということが非常に大事だと思っております。先ほどお話がありました、憲法の問題、原発の問題、社会保障の問題、いろいろありますけれども、幅広い道民の願いをとらえた、共通の政策をしっかりと持つということが、本気の野党共闘ということと重なって、私は重要だと思っております。

三つ目に大事なものは、やはり、道政を共同でやっていく、北海道をどう変えていくのか、というビジョンを、しっかりと共闘勢力で示していくことが出来るようにすることが大事だと思っております。

高橋知事の支持率が高いといいますが、「高橋道政でいい」「今までの道政でいい」と強い信念を持っている道民のみならずは、非常に少ないと思います。ですから、魅力ある共闘、魅力ある政策、魅力ある北海道を作るというビジョンが示されれば、私は、雪崩を打って、多くの有権者のみなさんの共感を得ることが出来るんじゃないかと思っております。そういう方向を目指して、頑張りたいと思っております。



道の食料自給率は、200%です。再生可能エネルギーの潜在的な可能性は、全国一だと言われています。魅力度ナンバーワンというのは、断トツで北海道です。このように、北海道には大きな可能性があると思います。

あえて、北海道の未来と期待される知事像と

いうことで言わせていただければ、「北海道の可能

（道知事選の争点は何が）

第二のテーマは、道知事選の争点は何か、というテーマでした。今述べてきましたけれども、道民に冷たく、国の「北海道つぶし」を率先して進める道政、国言いなり・自民党政治いなりの道政、これを根本的に転換する、というのが最大の争点だと思っております。同時に、市民と野党の共闘の力でかちとられる知事選勝利は、安倍政権への決定的な痛打になる、と思っております。

私たち日本共産党も加盟している「明るい革新道政をつくる会」では、知事選に向けての四つの共同目標というものをまとめています。今日は資料として、みなさんにお配りしています。

一つは、「憲法9条改定に反対し、平和憲法を守り、道政のすみずみまで憲法を活かす」。この点では、世界一危険なオスプレイを歓迎するような知事で、本当に良いのかということが、本当に問われていると思います。二つ目は、「貧困と格差をなくす福祉と教育の充実、まともな雇用を広げ、道民が安心してくらし続けられる地域と北海道をつくる」。三つ目は、「北海道の農林漁業・中小企業を大切に、経済に切りかえ、地域経済を守る。鉄道を地域の公共交通の要として存続させる」。四つ目は、「原発のない北海道、再生可能エネルギーで地域づくりをすすめる、安心な未来を作る」。こつこつ、四つの共同目標をまとめております。以上の四点が具体的な争点になるだろう、と考えております。みなさま方から、さらに意見をあ寄せいただいで、さらに発展させていきたい、と考えております。

（期待される北海道知事像）

第三のテーマとしていただいているのは、北海道の未来と期待される知事像とはどういうものか、ということでありました。

長く続いた、自民党・高橋道政の下で、先ほども言いましたけれども、北海道では文字通り「暮っしにくさ」というものが際立っている、と思います。悪い印象ばかり、という感じがありますけれども、しかし私は、北海道には、他の県にはない大きな可能性がある、と思っております。北海道の食料自給率は、200%です。再生可能エネルギーの潜在的な可能性は、全国一だと言われています。魅力度ナンバーワンというのは、断トツで北海道です。このように、北海道には大きな可能性があると思います。

あえて、北海道の未来と期待される知事像と